

# 取組の柱③：多層的な連結性

## 事例③⑩：太平洋島嶼国の空港・港湾・通信インフラの一体整備

### 1. 基本的な考え方

●太平洋島嶼国は我が国と長年の友好関係。日本と豪州とを繋ぐシーレーンと、インド洋から南シナ海を抜け太平洋に至るシーレーンとが交わる戦略的に重要な地域。

●太平洋島嶼国は地理的に分散し、人口が少なく経済的にも脆弱であり、特に近年、コロナ禍により脆弱性が高まっている。そのため、従来の我が国のインフラ支援を加速させ、包摂性の原則のもと**地域の連結性**を向上し、活力ある成長を実現することがこれまで以上に重要。

⇒相手国のニーズを尊重しつつ日本の強みを活かした協力を実施することで、活力あるインド太平洋を維持・強化。脆弱性を克服し、国境を越えて全体として底上げ。

### 2. 具体的な取組

●来年開催予定の太平洋・島サミット（PALM10）を見据え、デジタル、経済安全保障を含む各分野での協力を強化。

●空港・港湾設備整備（以下はこれまでの実施例）

- ・パプアニューギニア（PNG）：ナザブ国際空港の整備
- ・ソロモン：ホニアラ国際空港の整備
- ・パラオ：国際空港ターミナルの拡張
- ・バヌアツ：ポートビラ港ラペタシ国際多目的埠頭の整備
- ・キリバス：ベシオ港の拡張
- ・サモア：アピア港の安全向上

●通信インフラ整備

- ・東部ミクロネシアにおける海底ケーブル敷設事業（実施中）
- ・パラオ海底ケーブル支線敷設（米星間の海底ケーブルの分岐支線）

